

平成 2 2 年度

— 第 6 回（定例・臨時） —

教育委員会会議録

開 会	平成 2 2 年 7 月 1 日	午前 午後	2 時 3 2 分			
閉 会	平成 2 2 年 7 月 1 日	午前 午後	3 時 2 0 分			
会 議 場 所	教育委員室					
委員出欠	上野道善	出	濱上和康	出	平田静太郎	出
	藤岡庄司	出	松村佳子	出	富岡将人	出
議事録署名	教 育 委 員 長					
委 員	教育委員長職務代理者					
書 記	奈良県教育委員会事務局 企画管理室					

議案及び議事内容	結果
<p>次 第</p> <p>報告事項1 平成23年度奈良県・奈良市・大和高田市公立学校教員採用候補者選考試験の出願状況について</p> <p>報告事項2 平成23年度奈良県立高等養護学校及び奈良東養護学校高等養護部入学者募集要項について</p>	<p>承認</p> <p>承認</p>
<p>報告事項1 平成23年度奈良県・奈良市・大和高田市公立学校教員採用候補者選考試験の出願状況について</p>	
<p>○委員長 「報告事項1について報告願います。」</p> <p>○教育長 「平成23年度奈良県・奈良市・大和高田市公立学校教員採用候補者選考試験の出願状況及び試験内容、日程、試験場所等について教職員課長よりご報告いたします。」</p> <p>○教職員課長 ……資料に基づき報告……</p> <p>○藤岡委員 「栄養教諭の倍率が高い倍率となっているが、受験者が増えて良かったと思う。この60名の受験者数を引いても全体に増加している。」</p> <p>○教職員課長「専門科目を2次試験にまわしたこと、併願を廃止したことで受験してみようと思う応募者が増えてきたためと思われる。」</p> <p>○濱上委員 「奈良県の場合採用人数が少なく、より採用数の多い大阪府で受験してみようとする動きもあるだろうが、その辺の認識はどうか。」</p> <p>○教職員課長「より優秀な職員を採用したいと考えると、倍率は高い方がよい。現状では神奈川県、東京都、大阪市では小学校教員の倍率が3倍を切っている。一方で、鳥取県、青森県や長崎県では15倍を超える倍率となっている。一定の採用の枠がないと受験しにくい。大都市圏では地方で不合格となる優秀な人材をどう集めるかという施策もとっている。奈良県の4.3倍は、ぎりぎり優秀な人材を確保できるラインであると考えている。」</p> <p>○濱上委員 「都市部と地方を考えると、大都市へ行くと就職がある一方で鳥取県</p>	

議案及び議事内容	結果
<p>などでは産業が少なく、公務員の人気が高い。これが優秀な人材の確保につながるのか、単純な比較ではないと思う。採用人数が少なく倍率の高い地方ではなく、採用人数の多い都市部へも優秀な人材は流れると思う。」</p>	
<p>○教職員課長「養護教諭、栄養教諭の場合供給がかなり多いため、かなりの倍率になっている。高等学校では昨年の35名から60名の募集になっていて、大規模採用とすると期待して受験者も増えてくる。」</p>	
<p>○濱上委員「私もそう思う。受験者に優秀な人材も増えてくると思う。」</p>	
<p>○平田委員「採用人数は定員を充足する人数なのか。」</p>	
<p>○教職員課長「採用予定者とは二次試験合格者の人数であり、講師を含めて、定数を充足する人数である。」</p>	
<p>○平田委員「辞退者は考えていないのか。余裕はないのか。」</p>	
<p>○教職員課長「辞退者はいる。採用人数を公表しているなので、その人数で採用している。」</p>	
<p>○教育長「採用予定者数を決めて、その人数を採用している。見込数を定年退職者数、講師率等で検討しての対応としている。」</p>	
<p>○平田委員「受験者を年齢別で見ると23歳から30歳の受験者が多いが。」</p>	
<p>○藤岡委員「41歳以上の受験者がいる理由は。」</p>	
<p>○教職員課長「まず、大卒ストレート合格は減少している。講師を経験してからの出願が多くなっている。また、3年以上の講師歴があれば、45歳まで受験できる。現在、講師として教壇に立っている方である。」</p>	
<p>○藤岡委員「講師の給与体系や年金はどのようになっているのか。」</p>	
<p>○教職員課長「講師の給料表は教職員給料表の1級を使用している。経験年数とともに徐々には上がっていく。」</p>	
<p>○福利課長「常勤で1年以上継続して勤務の場合は、公立学校共済の組合員とな</p>	

議案及び議事内容	結果
<p>っている。」</p> <p>○教育次長 「今の年金制度は、何らかの社会保険は全員加入するシステムになっている。国民健康保険や共済保険に入っている。ただ、入っている組合によって年金は変わってくる。」</p> <p>○平田委員 「民間人校長はどうなっているのか。」</p> <p>○教育長 「現在、校長で1名、教頭で2名おられる。」</p> <p>○平田委員 「うまくいっているのか。」</p> <p>○教育長 「民間の手腕を発揮してもらっていると思う。ただ、あまり民間から入ってもらっても、内部で管理職を目指して頑張っている教員のやる気を損なう可能性もある。」</p> <p>○濱上委員 「民間人校長の総括も必要かもしれない。」</p> <p>○教育長 「議会等でも質問があり、一定の総括をしている。それなりにいい働きをしてもらっている。しばらくはこのままの状態で行きたいと思っている。」</p> <p>○平田委員 「トップの管理職であっても、実務の細かいことまで知っていないといけないと思う。」</p> <p>○委員長 「この件について、承認してよろしいか。」</p> <p>※ 各委員一致で承認</p>	
<p>報告事項2 平成23年度奈良県立高等養護学校及び奈良東養護学校高等養護部入学者募集要項について</p>	
<p>○委員長 「報告事項2について報告願います。」</p> <p>○教育長 「軽度の知的障害のある生徒を対象とする高等養護学校及び奈良東養護学校高等養護部の募集要項を定めましたので、特別支援教育企画室長よりご報告いたします。」</p> <p>○特別支援教育企画室長 ……資料に基づき報告……</p>	

議案及び議事内容	結果
○松村委員 「高等養護学校48人、奈良東養護学校16人と少人数指導であるが、卒業後の進路はどのようになっているのか。」	
○特別支援教育企画室長「約3割は一般就労、他は授産施設や作業所など福祉的な仕事に就いたり、高等技術専門校への進学もある。おおむね就労を目指しているが、今は一般就労では厳しい状況にある。」	
○松村委員 「企業には障害者雇用が義務づけられているが、それに応じて行っているのか。」	
○特別支援教育企画室長「障害者雇用として積極的な企業もある。」	
○委員長 「この件について、承認してよろしいか。」	
※ 各委員一致で承認	
<p>その他報告事項</p> <p>① 奈良県教育委員会会議録について (教育次長)</p> <p>② 平成22年度高等学校等奨学金の採用状況について (学校支援課長)</p>	